

集団個別型指導システム TsuX (ツークス)

「わかる」ではなく「できる」に「こだわる」システム

●学習塾に求められる役割を果たす

学習塾が市場から求められる役割とは何か。生徒・保護者の気持ちという原点に返って考えたとき、「成績向上」と「志望校合格」が真意であり、それらの成果が出せない学習塾は市場から退場となる厳しい時代になっています。一方、学習環境という視点で地方と都市部を比べた時、教育の機会、質は、ともに「格差」と言われるまでに広がりを見せています。

そんな時代だからこそ、学習塾が求められる役割を果たし、成果を出せること。そして、立地などの外部要因に左右されることのない学習空間を日本全国に広げること。それが集団個別型指導システムTsuX (ツークス) 開発の原点です。

●「わかる」から「できる」にこだわる

TsuXは、映像授業＋オリジナル教材の組み合わせで、集団指導と個別指導、双方のメリットを併せ持ち、また、双方のデメリットは解消する運営システム教材です。ここだけをみれば、通常の映像授業と塾用教材を使った商品と代わり映えなく感じるかもしれませんが、TsuXは、生徒を「わかった」気にさせるのではなく、生徒が「できる」ようにすることに徹底してこだわります。

●担当講師の全面プロデュース

こだわりの一つが、教科別担当講師一人の手による、映像授業の制作とオリジナル教材制作、校正の全面プロ

デュースです。通常の映像授業では、ある出版社が制作した教材を、別会社の所属講師が台本をもとに解説しているのが一般的です。TsuXの映像授業では、講師を直接画面に登場させず、板書と音声のみで解説させる方式を採用しました。これにより、身振り手振りのパフォーマンスに頼るのではなく、いかに生徒を集中させ、「熱量」と「ライブ感」をもつて、生徒が理解できる解説を行うかが担当講師に求められます。

完全プロデュースの真意はここにあります。担当講師は、作問、校正の段階から本当に必要であると感じている課題や問題のみを抽出したオリジナル教材(ライブ)を制作。そして、解説する内容、順番、スピードを徹底的に計算した映像授業を、すべての要点、問題で用意。小さなつまづきも許さないスモールステップ式を実現しています。

●映像授業でも学習塾らしさにこだわる

また、完全プロデュースは、映像授業制作時に思いがけないこだわりを付加しました。それは、担当講師独自のノウハウが詰まった暗記法や語呂合わせ、1問1答など、学習塾らしさを感じさせる学習のヒントやテクニックが、映像授業の中にちりばめられたこと。TsuXの特長である「わ

かるをできる」にこだわるがゆえに、それらのノウハウは惜しみなく提供されています。

●学習塾での運用も「できる」にこだわる

3つ目のこだわりが、学習塾で運用できるモデルであるかどうかです。制作会社がどれだけ学習塾へのヒアリングをもとに開発を進めても、毎日授業をしている先生の意図と完全に合致することはありません。それは、機能、効果を引き出すための運用方法にばかり焦点が当てられ、日々起る現場での不安や疑問を解消するという継続的な視点が抜けているからです。TsuXの運用モデルは、もともと学習塾の現場で行われていた仕組みがベースとなっています。そのため、「どこを何回させればいいのか」といった現場で起きがちな疑問を解消する帳票などの各種ツールや、その使い方が備わっています。

「わかる」ではなく「できる」にこだわる「TsuX」は、今後、「中学生向けの学習法」なども映像化する予定です。学習塾の新しい指導体制となるTsuXの今後に期待してください。

「ライズ数学」の進め方

Step1 基本例題の動画解説 視聴

→重要事項・解法のポイントを確認する。

Step2 基本例題の問題をノートに解く

→解法を完全にまねること。

→公式・解法の暗記

Step3 講師チェック(一問一答により理解度を確認)

【チェックポイント】

①我流ではなく、解法をまねて解くことができるか?

②途中計算の書き方が、ノート術の通りになっているか?

③計算ミスをしていないか?

④図・表・グラフを描いて解くことができるか?

→上記1つでもできていなければ、Step2に戻り直し。

Step4 確認問題を解く。

Step5 解説動画を視聴して、自分の解法・解答が正しいか確認。

【チェックポイント】

①答えが合っているか否かを確認

②解法のプロセスが解説動画の通りになっているか?

③図・表・グラフを描いて解くことができるか?

Step6 解き直し

①間違えた問題、②解けなかった問題

この2点について解き直しをする。

Step7 解答・解説集で、正しく解くことができるか確認。

必要に応じて解説動画を視聴。

Step8 重要事項・暗記事項を「ダメだしノート」「暗記カード」に落とし込む

Step9 講師チェック(一問一答により理解度を確認)

【チェックポイント】

①我流ではなく、解法をまねて解くことができるか?

②途中計算の書き方が、ノート術の通りになっているか?

③計算ミスをしていないか?

④図・表・グラフを描いて解くことができるか?

→上記1つでもできていなければ、Step4に戻り直し。

Step10 完全に理解できたら、次の基本例題に進む。

※応用問題および★印の問題は、偏差値上位の高校への進学希望者および数学の学力上位者のみ解くこと。

お問い合わせ先

中央教育研究所 株式会社

TEL:082-227-3999 (広島本社)

事業開発本部 東京オフィス

TEL:03-5283-5677

